

札幌市厚別区土木センター ふれあいを大切にして区民と共に、 やすらぎと躍動の副都心の まちを目指しています。



■厚別区は誕生して10年、豊かな自然と先端産業が同居する若い区です。

札幌市厚別区は、札幌の東部に位置し、北東は江別市、南東は北広島市に接しています。南北9.3Km、東西4.9Kmの広がりを持ち、面積は24.38平方Kmで全市の2.2%、札幌市では最も小さな区です。現在ここに約12万6000人の住民が暮らしています。

厚別区の歴史は、明治16年に長野県（信濃）の出身者が入植したことに始まり、今も信濃小学校や信濃神社などが郷里の名前を伝えています。昭和25年には厚別地区を含む白石村が札幌市に編入され、その後、昭和47年4月1日に札幌市が政令指定都市に移行するに伴って白石区が誕生。白石区は、地下鉄東西線の開通や厚別副都心計画の進展で人口が著しく増加し、そのため平成元年11月6日に、厚別川を境界の基本線として東側に厚別区が誕生しました。

JR新札幌駅や地下鉄新さっぽろ駅付近には商業地区が形成され、それを囲むように住宅地が広がっています。野幌森林公園など豊かな自然環境に恵まれた厚別区には特徴的な施設が数多くあります。先端情報産業が一堂に会する「札幌テクノパーク」をはじめ、大型社会教育施設の「青少年科学館」や「サンピアザ水族館」には札幌以外からの来館者も多いようです。J1昇格を目指すコンサドー



レ札幌が熱い戦いを繰り広げる厚別公園は、道内唯一の第一種公認陸上競技場です。

厚別区では現在、平成10年3月にまとめられた「まちづくりビジョン」に基づき、“やすらぎと躍動を感じるまち—あつべつ”をテーマに、ふれあいと広がりのある副都心のまちを目指して街づくりが進められています。

■パトロールや除雪、そしてハチの巣の除去と仕事は多岐にわたります。



冬に大活躍の除雪車

厚別区の誕生に合わせるようにして開設された厚別区土木センターは、札幌市の機関として同区に密着した土木事業を展開

しています。中でも冬の除雪は大きな仕事のひとつです。平成10年の車道除雪は330Km。除雪率は99%で、市全体の96%を上回っています。これまで一部直営で除雪を行ってきましたが、この冬からは全面委託となりました。限られた予算の中で、除雪だけにウエイトを置くわけにはいきません。市では除雪車が通った後の家の前の雪は市民が除雪するよう協力を求めています。『家の前の雪も持って行ってほしいと、土木センターに電話が入ります。何とか理解していただけるよう、職員がいろいろお話はさせていただいてるんですが』と中野淑文土木部長。厚別区土木センターをとりまとめる重要な仕事をされています。

北国で暮らす以上、除雪の問題は切っても切り離せません。除雪は市の仕事だからと決めつけず、市民も一緒になって冬の生活を快適なものにするよう努力する必要があります。



厚別区土木センターの皆さん

厚別区の平均年齢は38.8歳と全市の39.4歳(平成11年4月調べ)よりも若い傾向にあります。昭和37年から43年かけて造成された青葉地区では当時入居された住民が高齢化し、もみじ台地区やひばりヶ丘地区でも高齢化が進む中、町内会のボランティアが高齢者世帯の除雪作業を手伝うことも珍しくないそうです。

■パートナーシップが成果をあげています。

「厚別区の町内会の方たちは、自分たちのまちをより良くしたいと思う気持ちが強いのか、除雪問題はもちろんのこと、公園の整備や花いっぱい運動など、まちづくりには積極的に参加します」

区民のパートナーシップは厚別区でも着実に成果を上げており、歩道の美化運動では花を植え、肥料や水やりなどもみな町内会が行っています。厚別区内を歩くと、手入れの行き届いた美しい花々が気持ちを和ませてくれます。

「平成9年度には区長をはじめわたしたちも区民の声を直接聞く懇談会を設け、区の将来像、まちづくりの方向をまとめた厚別区のまちづくりビジョンをつくりました。今後も区民の声が反映されたまちづくりをしたいと考えています。最近、多くのお年寄りの方から、パークゴルフ場への要望が強いですね。公園のリフレッシュに際しては、野球場が2面あればそのうちの1面を多目的広場にしてほしいという意見が出されます。ときには公園にハチが巣を作ったから危ないので取り払ってほしいとか。とにかく区民の方たちが暮らしやすい環境を作ることが最大の使命です」と話す中野部長。

もちろん防災面でも、日夜区民の方たちが安全に暮らせるよう体制を整えています。厚別川や野幌川などでは集中豪雨などから市民生活を守るよう河川整備がなされていますが、センター内でも連絡網を作り緊急の時に備えています。除雪が委託になることから、これまで除雪作業に携わってきた職員がパトロール業務へ移行。それに伴い河川や道路、公園のパトロールをさらに強化していきます。

■お祭りには沢山の人が集まり、近隣のまちとも交流が盛んです。

誕生して10年の若い区ですが、厚別区はお祭りがとても盛んです。

「毎年、7月末に各区で区民祭りをやりますが、厚別区が全市の中でも一番人出が多いんです。約12万6000人の人口で、10万人もの人が集まってくるんですから驚きです。江別市や北広島市など近隣のまちとの交流もあり、地区の子供たちのプラスバンドや勇壮なよさこいソーランの踊り、カラオケ、手づくりのものが並ぶ出店など、それはそれは賑やかなんですよ。場所も区役所の前のふれあい広場が会場となり、JRや地下鉄の駅、バスのターミナルに近いこともあって、人が集まりやすいですね。わたしたちも区民祭りの時にはハッピーを着て、会場でいろいろお手伝いをします。土木の仕事とはちょっと違いますが、区民とふれあう機会も大切にしています」と中野部長の言葉に熱が入ります。



分区10周年記念植樹

区内の道路の整備はほとんど終わっていますが、平成11年11月11日という11のぞろ目の日には、厚別中央通りが4車線で全線開通。高速道路の大谷地にあるインターチェンジが渋滞しやすいことから、11月12日には厚別の南側に降りるインターチェンジも開通し、利便性が増します。こうしたことから、今後はさらに維持管理に力を入れていきたいと力がこもります。

「わたしは厚別区土木センターに来て3年目。その前は25年近く下水道の仕事をしてきましたが、下水道の計画の部署にもいたので厚別はよく見に来ていたんです。この区の地盤や土地の特徴をいろいろ調べてきましたから、前任の経験をこれからの仕事に生かしていきたいですね」と中野部長。

いよいよ除雪の季節がやってきて皆さんご苦労も多いでしょうが「職員と委託業者さんで力を合わせ、また、区民の方々のご理解をいただき、冬を快適なものにしたいですね」と言葉を結ばれました。



中野 淑文 土木部長

(訪問者：宮野 恭子

平成11年9月21日)